

「アジアの仏教文化と大宰府」

講師・回答： 小泉 恵英先生(九州国立博物館副館長)

この度は大宰府アカデミー・令和編 第2期を受講いただき誠にありがとうございます。

皆様からいただきましたご質問につきまして回答いたします。

なお、ご質問につきましては、抜粋して掲載しておりますことをご了承ください。

Q／ 観世音寺の完成のお話のなかで、さまざまな考え方がありました。先生は寺院の完成ということについてどのようにお考えでしょうか。たとえば、伽藍の建物全体が出来上がった時が完成になるのでしょうか。

A／ 回答

具体的にこれ、というのは難しいです。例えば東大寺の大仏は、752 年に開眼供養をしています。像全体がきれいに完成したのではなく、この年に開眼するということが定められ、何とか形を整えた、という理解です。

しかし、主要堂塔(全てではなくても)が建ち、僧侶がおり、仏像(本尊)が安置され、法要が行なわれる、という基本的なことが実現できていることが、必要なのではないかと考えます。

個人的には、講座でも述べたように、養老 7 年(723)の僧満誓の筑紫派遣は観世音寺を造らせる、という目的でしたが、その後の天平 7 年(735)の天然痘による金剛般若経の読誦はこうした法要を実施できる体制にあったことを示していると思われるので、この辺りが境になるのではないかと感じます。

Q／ 講座の中でもお話があったと思いますが、観世音寺にあった当初の不空羂索観音像をイメージするのに参考になる仏像について教えてください。

A／ 回答

スライドでご紹介したように、奈良時代のものとしては、東大寺法華堂の本尊があります。

興福寺講堂(南円堂)は鎌倉の再興像、岡寺像は現存せずなので、一番近いのは法華堂像ということになります。ただし、観世音寺像は(個人的には)当初から十一面を有していたと思うので、その部分の形状は異なります。また法華堂像は像高が 360cm ほどなので、これよりも観世音寺像は大きかったはずです。心木のサイズから、現在像と同じ 5m 近くの像だったとみられます。